

クラス番号	638	担当教員名	大濱 裕
テーマ	住民参加と地域社会の自立 ～ 新たな地域の時代を求めて ～		
著書・論文	著書	「参加型地域社会開発の理論と実践」 ふくろう出版 2007年 「Participatory Local Social Development」 Bharat Book Center 2007年	
研究課題等	論文	「参加型地域社会開発の基本的枠組みと視点、及び、それに基づく評価枠組み構築にかかわる研究」 国際協力機構 (JICA) 2002年	
	課題	参加型地域社会開発 (住民参加と地域社会の能力育成・システム構築)	

ゼミナール概要

キーワード： 開発3要素、地域社会システム、地域自治、地域コミュニティの機能類型、経験的学習、変化のプロセス

(目的) 真の意味で、「地域」の中で「住民」の方々とともに語らい、笑い、そして、働くことのできる人材、社会において人として、生活者として、実践者として、「当たり前のことを当たり前でできる」専門家を育ててゆきたい。

(内容) 今日、第三世界 (アジア・アフリカ・中南米諸国) においても日本においても、経済・生活福祉・環境を巡る多くの問題・課題が山積するなかで、「住民の参加と地域社会 (暮らしの場) の自立」にその解決への糸口を見いだそうとする多くの試みがなされてきている。然し、そうした多努力にもかかわらず、現実においては十分な成果を挙げるには未だ至っていないのが実態・実情である。

その理由は、端的に表現すれば、今日の地域開発・地域福祉の支援・協力のあり方が極めて表層的な現象対応に留まり、問題・課題の根底にある根本的原因や地域社会の固有な構造機能的な能力や仕組みを看過している処にあると云える。地域社会における問題解決は、「愛は地球を救う」的な「慈善 (偽善)」アプローチや行政の「画一的」なサービス提供アプローチでは実現できず、同様に「小手先のツール論」に終始する住民参加では如何なる変化も期待できないことは、これまでの国内外における開発・福祉現場の経験が十二分に示している。

このゼミでは、上記の諸限界・誤謬を克服し、地域社会が歴史的・伝統的・経験的に自ら培ってきた固有な能力・経験・仕組み・価値規範に基づき、地域住民と行政・NGO / NPO・地域市場等が協議・協働・連携して「持続的・自立的」な地域社会を実現してゆくための「理論・実践手法・政策」を、事例分析や現場研修 (美浜町・飯田市・神戸市・フィリピン / ラグス市) と組み合わせながら学んでゆく。

(方法) 学生諸君の主体的・自発的な学習を尊重し基本とする意味で、次のような方法をとる。

- 1) 4-5名で構成される各グループによるサブゼミ活動を基本とする。
- 2) 本ゼミは、教員と学生諸君のディスカッションを基本とし、理論学習と事例分析を組み合わせながら展開する。
- 3) アジア・アフリカ・中南米の開発専門家と共に、日本の地域自治の経験・知見・仕組み等を学ぶ。
- 4) フィリピンおよび飯田市・神戸市で現地研修を実施し、住民参加による地域コミュニティ開発や行政連携の経験や実践手法を学ぶ。

(対象となる学生) 第三世界諸国および日本の地域開発・地域福祉問題に関心を有し、将来、海外・日本の現場で専門家・NGO/NPO 職員・行政職員・ボランティア・地域福祉専門家として活躍することを願っている学生諸君が最もふさわしい。型にはまらない独自の生き方を模索している諸君、生命の大切さとその深い意味を真剣に考え、人生の指針を得ようと努力している諸君を歓迎する。

(履修上の注意)

- 1) 志望票と共に「住民参加・地域開発とは何か」に関するレポート (2400字) を提出すること。
- 2) ゼミ活動に主体的に参加し、仲間と共に課題に取り組んでいく「意欲・根性」が必須。
- 3) 人として当たり前の「マナー・常識」を弃えた人が望ましい。

担当教員からのメッセージ

「為すは人にあり、成すは天にあり」と云う。また、良きこと・楽しいことも、悪しきこと・辛いことも全てその人の成長に必要なからこそ与えられる。全てを、静かに受け止め、与えられたことの意味に深く想いを致し、自らに授けられた「人生の意味と役割」を共に考えてゆこう。地域のなかで、仲間とともに、「我苦悶 (学問)」を探求してゆくような経験をともに紡いでみないか。